

【事業実績】

事業名：野尻湖周辺を活性化する博物館活動事業

野尻湖ナウマンゾウ博物館を中核館として、住民との共働によって、地域の活性化に結び付く事業をおこなった。

1. ユニバーサルミュージアム整備事業

誰にでも楽しんでもらえる博物館を目指し、(1)では外国人、(2)では障がい者について考え、当館の課題を抽出して、課題解決に向けた展示ボードの製作に取り組んだ。(1)では日本で生まれ育ったアメリカ人の方を講師に招き、外国人が求めていることなどを探った。(2)では特別支援学校等で長く勤務した経験を持つ2名の方を講師に、館内のバリアフリー等について意見や提案をもらった。いずれも、氷河時代案内人が課題解決のための展示ボードを製作し、その検証を含めて議論した。計4回のワークショップの内容は「記録集」にし、今後の活動に役立てることにした。

(1) ワークショップ「外国人にもっと楽しんでもらうには？」

- ① 第1回ワークショップ実施 2022年10月20日(水) 参加者8名(写真①、②)
- ② 第2回ワークショップ実施 2022年12月20日(火) 参加者4名(写真③、④)



①WS1 マイルズ氏講演



②WS1 ディスカッション



③WS2 展示ボード製作



④WS2 検証・意見交換

参加者の声 「説明のいらぬ展示は有効だと感じた」「外国人の立場をよく理解する講師による講義は内容が深く、外国人来訪者の視点をよく理解できて感動した」「通訳のボランティアを募集して、そういう方に博物館に関わってもらえば、もっと外国人が来てくれるのではないかな」

(2) ワークショップ「ハンディキャップのある方にも楽しんでもらえる博物館」

- ① 第1回ワークショップ実施 2022年12月23日(金) 参加者2名(写真⑤、写真⑥)
- ② 第2回ワークショップ実施 2023年2月24日(金) 参加者4名(写真⑦、写真⑧)



⑤WS1 要件整理



⑥WS1 館内確認



⑦WS2 展示ボード製作



⑧WS2 展示ボードの検証

参加者の声 「目の不自由な方には、ゾウの鼻なのか牙なのか、きちんとわかるようにそれ用の絵にしないといけないことに気づかされた」「車いすでは利用しにくい場所がかなりあることがわかったし、細かく見ていくとバリアフリーになっていないところに気づかされた。建物を改造するのはすぐにはできないが、できることから少しずつ改善すれば良いと思う」

2. 3D画像入り収蔵資料データベース整備・活用事業

氷河時代案内人やジュニア氷河時代案内人を対象に、化石の3D画像化のための写真撮影の講習会を行って、3D画像制作のしくみと撮影の方法を学んでもらった。3D画像にするためには1つの化石に対して300枚以上の写真撮影が必要で、講習会の受講者にはその後、長野県の天然記念物に指定されているナウマンゾウ等の化石の写真撮影をおこなってもらった。その写真データを業者に3D画像に加工してもらい、その画像をホームページで公開した。3D画像の活用を目指し、信濃小中学校2年生を対象に理科の化石の授業を

おこなった。画面上で細かくいろいろな角度から観察でき、新しい技術によって正確に計測できることなど、化石の実物に触らなくても、遠隔地から化石を調べることができることを学んでもらうことができた。

- ① 撮影講習会の実施 2022年11月26日(土) 参加者6名(写真⑨～⑪)
- ② 写真撮影(写真⑫、⑬)
- ③ 3Dデータ化(写真⑭)
- ④ ホームページで公開 http://nojiriko-museum.com/?page_id=2657
- ⑤ 3D画像を使用した授業の実施 2023年2月27日(月)生徒約60名(写真⑮、⑯)

なお、授業の様子がローカルニュースで紹介された

NHK 長野放送局 <https://www3.nhk.or.jp/lnews/nagano/20230227/1010025739.html>

SBC 信越放送 <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/sbc/349710?display=1&mwplay=1>



⑨撮影講習会



⑩撮影実習



⑪撮影指導



⑫写真撮影会(2月17日)



⑬写真撮影会(2月21日)



⑭3D画像データ化



⑮3D画像使用の授業



⑯3D画像使用の授業

参加者(中学生)の声 「自分で操作して化石をいろいろな角度から見ることはなかなかできないことなので、とても面白かった」 「ナウマンゾウはすごく昔のことで、よくわかっていないことも多いのに、こんな技術で詳しく化石を見ることができるようになって、すごい時代になったと感じた」

3. サテライトミュージアム事業

3Dプリンターで出力したナウマンゾウの模型に着色してもらい、店舗や宿泊施設に飾ってもらうワークショップを実施した。当初は10体の製作を計画したが、3Dプリンターの不調により、講師が着色したものを含めて5体となった。町内でアート活動をされている方を講師に迎え、参加者に個性豊かな着色してもらったことで、観光客の目を引くものとなり、観光地としての野尻湖をアピールする製作物に仕上げることができた。

- ① 3Dプリンターによる模型製作(写真⑰)
- ② 着色ワークショップ実施 2023年3月7日(火) 参加者4名(写真⑱、⑲)
- ③ 店舗・宿泊施設に設置(写真⑳)



⑰3Dプリンター出力



⑱着色の様子



⑲完成品(5体)



⑳店舗での設置の様子

参加者の声 「3Dプリンターの模型に着色できると聞いて参加した。思っていたよりも、きれいに仕上がって良かった」「好きに塗って良いと言われても、最初はどのように塗って良いかわからなかったが、館長さんからナウマンゾウのいろいろな話を聞く中でイメージが膨らんで、何とか完成させることができた」